

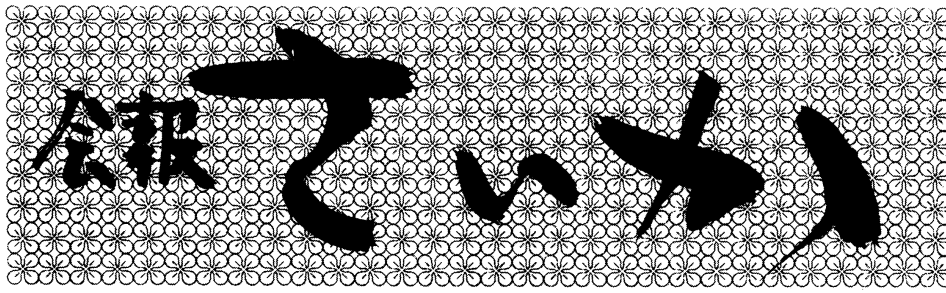
第 41 号

発行所

茶道裏千家淡交会
石川南青年部

石川県小松市小馬出町 123
松本パークハウス 24 号
TEL0761-24-6457

印刷社名
㈱ 鶴川印刷



「お茶会へ行こう」

茶道裏千家淡交会石川南青年部会報

工房見学

平成 26 年 9 月 27 日(土)、さすがに秋晴れの中、金沢市にて宮崎寒雉工房および大樋美術館の見学会が開催されました。

午前中は宮崎寒雉工房へと足を運びました。まず、お茶室にて宮崎寒雉氏による釜制作や種類等の説明がありました。床の間に置かれていた初代作の釜には皆興味津々で、当時の仙叟とのエピソードを交えたお話に、楽しく耳を傾けていました。その後、子息の匠氏により、工房にて釜の制作方法を教えてくださいました。初めて目にする工房で、道具の使用法や作業工程について会員からはさまざまな質問がとんでいました。工房見学後は、お茶室にてお抹茶をいただきました。

午後からは大樋美術館を見学しました。美術館では当館長である大樋長左衛門氏により、作品一つ一つの説明が行われました。初代から現代に至るまでの歴史や作風について丁寧な解説いただき、時折ユーモアを交えた力強い説明に、一同感心しきりで拝聴していました。見学後はお茶室にて大樋焼でお抹茶をいただきました。大樋氏によ

る楽しいお話が続き、名残惜しい雰囲気の中、会は終了となりました。
今回の見学会を通じ、加賀金沢の茶道文化にふれる貴重な体験ができました。古いものを知ること、先人と心を交わすことができたような、そんな素敵な一日となりました。

(山本 千春)



「工房見学に参加して」

スミスめぐみ

とても良いお天気の中、金沢の町並みを楽しみながら歩いて行くと、知らなかつたら通り過ぎてしまうかも？という位、町並みに馴染んだ、宮崎寒雉さんの工房がありました。これぞ職人さん！という雰囲気がある寒雉さんから、湯釜の作り方などの画像を見せていただき、その後、素敵なお庭を通つて、実際に作業されている場所に向かい、息子さんからお話を伺いました。口数は少なく「たいして珍しい物もないんですが・・・」とおっしゃるのですが、私にとっては、初めて見る物が多く、とても興味深かったです。完成前にわざとすじをつけ、それを見れば、誰が作ったものかわかる、というのも興味深かったです。おにぎりのお釜のお話も印象に残っています。今後はお釜を見る時に今日の事を思い出しそうです。

美味しい昼食後は大樋美術館へ向かい、なんと、十代大樋長左衛門さんから、直々にお話を伺うことが出来ました。お会いした瞬間から、講義？は始まり、次から次へといろんなお話をしてくださいました。「人と違うことをするんだ」や、「なんとと言っても日本は島



国なんだから、もつと国際的になる必要がある」など、深いお話もありながら、絶妙なタイミングで冗談などをおっしゃられるので、真面目に聞きながら、笑いの絶えない楽しい見学ツアーでした。

どちらの見学にも共通していたのは、素敵で贅沢なお呈茶があった事と、奥様が素敵な方だったということ。見学に連れていってくださり、ありがとうございました。青年部員同士での親睦にもつながるように感じ、いい企画だと思いました。

花籠作り教室

好天に恵まれた10月26日(日)、ジュニア委員会の主催で金沢市の湯涌みどりの里にて花籠作り教室が催され、青年部会員15名が参加しました。

講師は金沢市湯涌在住の竹芸作家、榎本千冬先生でした。まず、先生から竹芸の作品をいくつか見せていただき、制作過程などの説明を受けてから、花籠作りを始めました。

八本の細長い竹を、先生に教えていただきながら、重ね、曲げながら制作しました。最初はまっすぐな竹を曲げるのに苦労している方もいましたが、先生の丁寧な指導に従って作っていく内に形が出来上がっていく様子が皆とても楽しそうで、同じ手順を踏んだ花籠でも、形や大きさなどでそれぞれの個性が見られました。完成後にはさっそく持参した花を自作の花籠に生ける方もいました。

昼食後は先生の工房で、素敵な作品を沢山見せて頂きました。

午後は金沢湯涌江戸村の旧山川家住宅の茶室にて、簡単なお茶会を楽しみました。ジュニア委員会のメンバーが

点前と水屋を担当し、榎本先生と奥様をお招きして、かつて繁栄した商家の雰囲気味わいながらおいしいお茶をいただきました。

日本の伝統工芸を体験し、会員の親睦を深める充実した一日となりました。

(立花 千佳)



「花籠作り教室に参加して」

村崎 圭

花籠作り教室に参加させていただきました。以前、竹を編んで作った小さな花籠を見て、素敵だなと思ったことがあるので、今回の教室を楽しみにして行きました。

花籠は、薄く削った竹を、幅0.5センチ程にしたものを何本も使い、編んで作りました。

先生は、目の前で竹を割り、花籠ができるまでの工程を説明しながら見せてくださり、全てが初めて見聞きすることばかりで、とても興味深かったで





す。説明を聞いた後、先生に事前を用意していただいた、薄く削った竹を使い、教えていただいたながら楽しく作ることができました。完成した後、私のもも含め、周りの方の作品を見て、同じ材料で同じ編み方をしているのに、それぞれが雰囲気の違いが花籠になっていて面白いと思いました。

午後からは金沢湯涌江戸村で、館長さんの説明を聞きながら昔の家を見て回り、その後、薄茶を二服いただきました。一日を通して貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。

平成 26 年 11 月 30 日(日)、能美市根上学習センター松海庵において、旅する茶会くハッピーアワー!くが行われました。当日はとても暖かく爽やかな秋晴れとなりました。

今回の青年部茶会は、『旅』をテーマにし、お茶席でのお道具は、日本各地や世界を旅したものを設え、旅籠のお点前でもてなしさせていただきました。そんな中、旅には欠かせないであろう、おむすびの主菓子が登場した時には、お客様から笑いとどよめきがあり、またさらに楽しい旅する感覚を感じていただけたようです。さらに今回、日本各地を旅している茶杓『尺度』を関東第三ブロックよりお借りすることができ、お道具だけでなく青年部間交流の輪も広げることができました。

時間と空間を旅したお茶席の後は、点心席へ。雰囲気はガラリと変わり、まるでクリスマスパーティーに招かれたようなお席に、お客様もハッピーな雰囲気に包まれました。クリスマスの衣装を着た青年部会員が洋風の点心を

旅する茶会
くハッピーアワー!く



運び、その姿にはみんなが自然と笑顔になり、終始楽しいお席となりました。お茶席すべて終了後には、茶杓『尺度』の受け渡し式が行われました。青年部会員が見守る中、関東第三ブロックへ渡され、茶杓はまた次のお茶会へ旅立っていきましました。

(武田 奈津)

「旅する茶会くハッピーアワー!く」に参加して」
行松 宏展

平成 26 年 11 月 30 日、青年部茶会が能美市「松海庵」にて行われました。「旅する茶会くハッピーアワー!く」当日は 130 名のお客様に参加いただきました。今回の青年部茶会のテーマは「旅」。

お茶席の道具組は、淡交会青年部関東第三ブロック内青年部を旅してきたという「尺度」という銘の茶杓を中心に、旅を連想させるものを取り揃えました。またお茶席から点心席までの一連の流れを時間旅行と仮定し、参加した皆さんにハッピーアワーを過ごしていただくとうと趣向を凝らしました。お茶席では旅を連想させる道具組だけではなく、おにぎりやたくあんといった旅のお供がお菓子で出てきたり、また点心席ではクリスマスの華やかな飾りつけにサンタやトナカイが登場し、「とても青年部らしい斬新なアイデアで楽しいひと時でした」との声をたくさんいただきました。

「旅する茶会くハッピーアワー!く」に参加して」
行松 宏展



また関東第二ブロック内の青年部会員5名にも参加いただき、茶会で一つの道具を共有したことで生まれる青年部の繋がりも感じる事ができて、とても楽しい有意義な時間でした。



青年部会員募集中
私たちと一緒に活動しませんか?
詳しくは・・・
淡交会事務所
(0761-24-6457)
石川南青年部部长 岩谷
(0761-22-6311)

小山 祥太 木谷宗友 社中	西村 明子 小島宗孝 社中

《 新入会員 紹介 》

「さいか(細花)」とは?
細かい花のようにお茶が点つている様子を表した言葉。
会員一人一人は小さい花かもしれませんが、みんなが集まって青年部として一つの大きな花を咲かせていけるように、という気持ちが込められています。

編集後記
さいか41号をお届けいたします。掲載した記事を振り返ってみると、本当に皆様のおかげでたくさんの方の行事を行なえたのだなあと思いに感謝の気持ちでいっぱいです。青年部の体制が変わったことで、活動する役員の数は実際には減り、活動自体大変な部分はたくさんありました。それぞれの仕事や家庭のことなど抱えている中で、お互い大変さを思いやりながらも協力し、一つの行事を行なえたことは今の青年部にとって大きな第一歩なのではないかと感じました。若い岩谷部長を中心に会員の皆さん、そしてこれからの新しい会員の皆さんと共に、今期も一緒にお茶ができることを楽しみにしています。
(武田 奈津)